

防災教育「心」以外も

教員ら今後のあり方議論

事業報告会

県教委や神戸市教委
などで作る「防災教育
開発機構」が取り組ん
できた「防災教育支援
事業」の成果報告会が
9日、神戸市中央区の
県民会館であった。教
育関係者や防災研究者
らを取り組みを報告
し、阪神大震災の被災
地における防災教育の
あり方を議論した。

教育関係者や地域住
民ら約100人が参加
した。同事業は08年度
から2年間の文部科学
省の委託事業。県市教
委のほか、人と防災未
来センター、県立舞子
高、神戸学院大が中心
になって進めた。

討論会では、人と防
災未来センターの宇田
川真之・主任研究員が
障害児向け防災教材の
試作を踏まえて「障害
者の防災対策も想像方
が必要。防災をきっか
けに障害者と一緒に社
会を作っていければ」

と話した。県立舞子高
の諏訪清二教諭は「兵
庫の防災教育は『心』
に集中してきたが、全
国から足りない部分を
取り入れる時期に来て
いる」と今後の方向を
示した。【川口裕之】